

活動名称 (40字以内)	都内でも農林作業フィールドワーク体験		
団体名等	農学生命科学研究科附属生態調和農学機構		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input checked="" type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input type="checkbox"/> 面接
	<input type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		9 人
	<input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
参加資格等	学部学生		
活動期間	8月上旬1日と9月上旬1日	主な活動場所	農学生命科学研究科附属生態調和農学機構・田無演習林
	2 日間		
目的	都内にある生態調和農学機構・田無演習林を利用し、農作業体験により実際の農業生産に関する理解を深めるとともに、生態系のフィールドワーク調査により農業と生態系との関係について考える。		
具体的な内容 (800字程度)	<p>農学生命科学研究科附属生態調和農学機構・田無演習林は都心から20分あまりの西東京市にあり、耕地(畑地、水田、果樹園地)、緑地、林地を包含する30ha以上の面積のフィールドを保有している。このフィールドでは、農学部を中心に多数の実習を行っているほか、学内外の教育研究に利用されており、様々な農作物を栽培・管理している。本体験活動プログラムでは、これらの農作物に実際に触れる農作業や、フィールド調査を体験する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 果樹園では、果樹の管理、収穫作業、出荷の準備を体験する。糖度測定と食味官能試験を行い、測定される数値と実際に感じる味を比較する。また、果実が食卓に上るまでの品質管理について知る。 最近の農業では、AIやロボット、情報ツール、環境制御などを利用したスマート農業が注目されている。畑地では、ドローンなどの情報ツールを利用した農作物の調査や、施設栽培における環境制御の一端に触れる。 補虫による生態系調査フィールドワークを体験し、農業が環境に与える影響を考える。 緑地のフィールドには、わが国有数の品種数を誇る300品種以上の花ハスのコレクションがあり、機構オリジナル品種も育成している。夏季には一般向けの公開も行っている。花ハスの花卉や葉の形態特性を比較し、新品種登録に必要なプロセスを体験する。 演習林では、散策者の安全を確保するための森林管理作業を、「スローライン」という道具を使って体験してもらう。この体験を終えた後には森林を散策する者と森林を管理する者の視点が異なることに気付くはずである。 		
備考	・事前オリエンテーションの出席必須(7月後半) 日程は、参加者決定後連絡		
参加するための費用 [※]	内 訳(1名当たり)		その他 [※] 特記事項は以下に記載 生態調和農学機構最寄り駅(西武新宿線田無)までの往復交通費。
	交通費	1,000 円	
	宿泊費	円	
	()	円	
()	円	奨励金額	なし 円
計	1,000 円		
ウェブサイト等	東京大学農学生命科学研究科附属生態調和農学機構： http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/index.shtml		